

逆紹介割合に関する調査結果

調査対象:全国医学部長病院長会議 82大学病院(本院)に調査依頼

調査対象:令和7年6月診療実績

調査時期:令和7年8月1日～8月22日

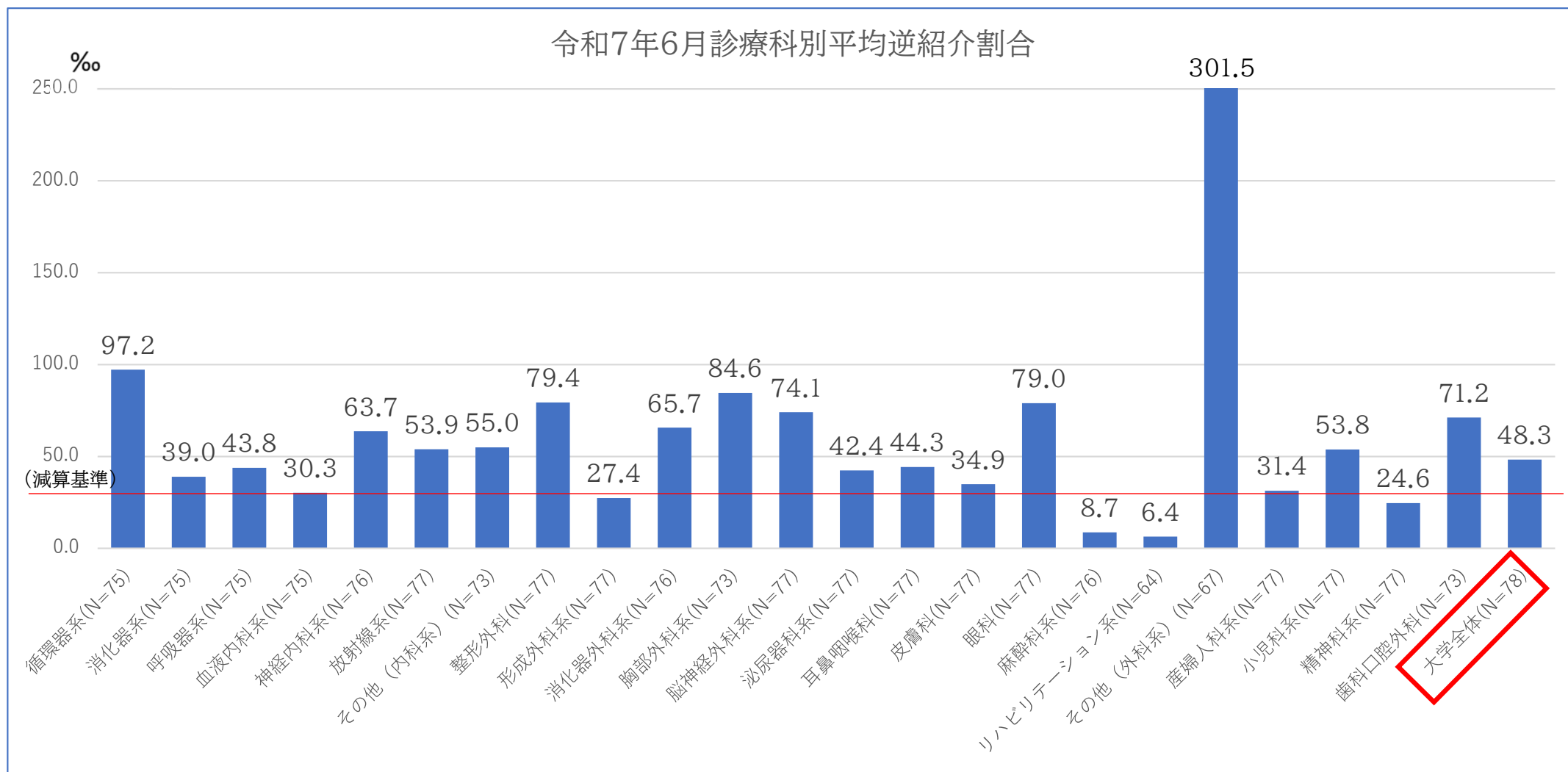
回収結果:9月2日現在78大学回答(回収率95.1%)

調査結果:令和7年9月2日9:00現在の回答データを集計

令和7年9月11日
一般社団法人 全国医学部長病院長会議

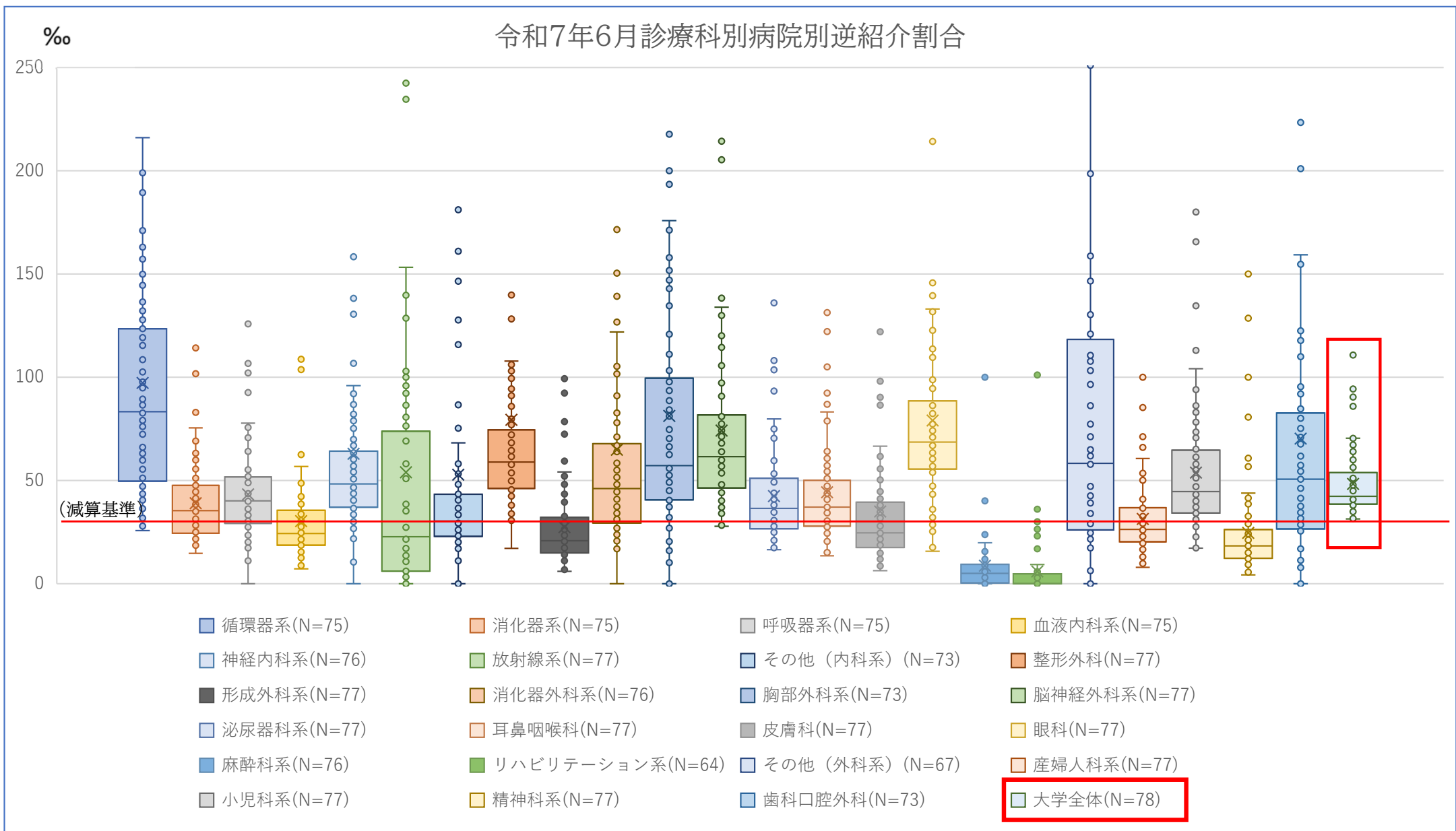
令和7年6月診療科別逆紹介割合

診療科別の逆紹介割合の平均値で、全体では48.3%となっている。減算基準30%を下回った診療科は、23診療科のうち形成外科系、麻酔科系、リハビリテーション系、精神科系の4診療科となっている。



令和7年6月診療科別・病院別逆紹介割合

中央値が減算基準を下回っている診療科は、平均値で下回っていた4診療科に加え、血液内科系、放射線科系、皮膚科、産婦人科系の4診療科となっている。

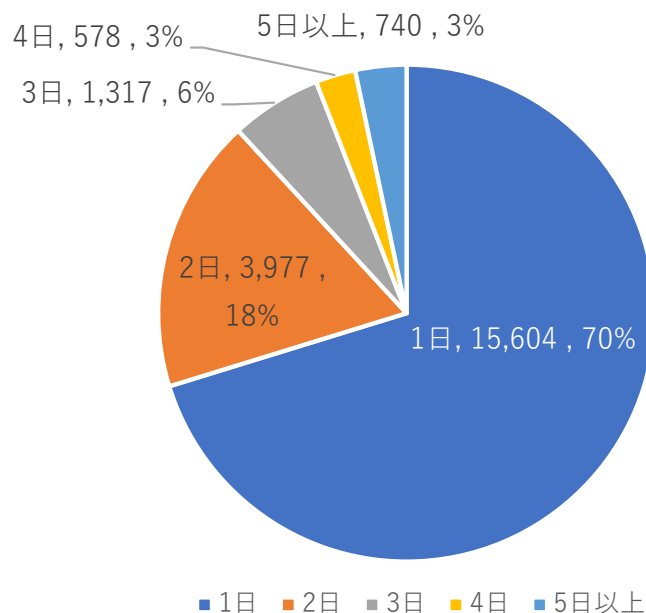


令和7年6月の再診日数別実患者数

1か月間の患者ごとの再診日数を調べた結果、1日～2日が88%とほとんどを占めており、4日は2.6%、5日以上は3.3%となっている。

令和7年6月の再診日数別実患者数（1大学病院平均）

(N:78)

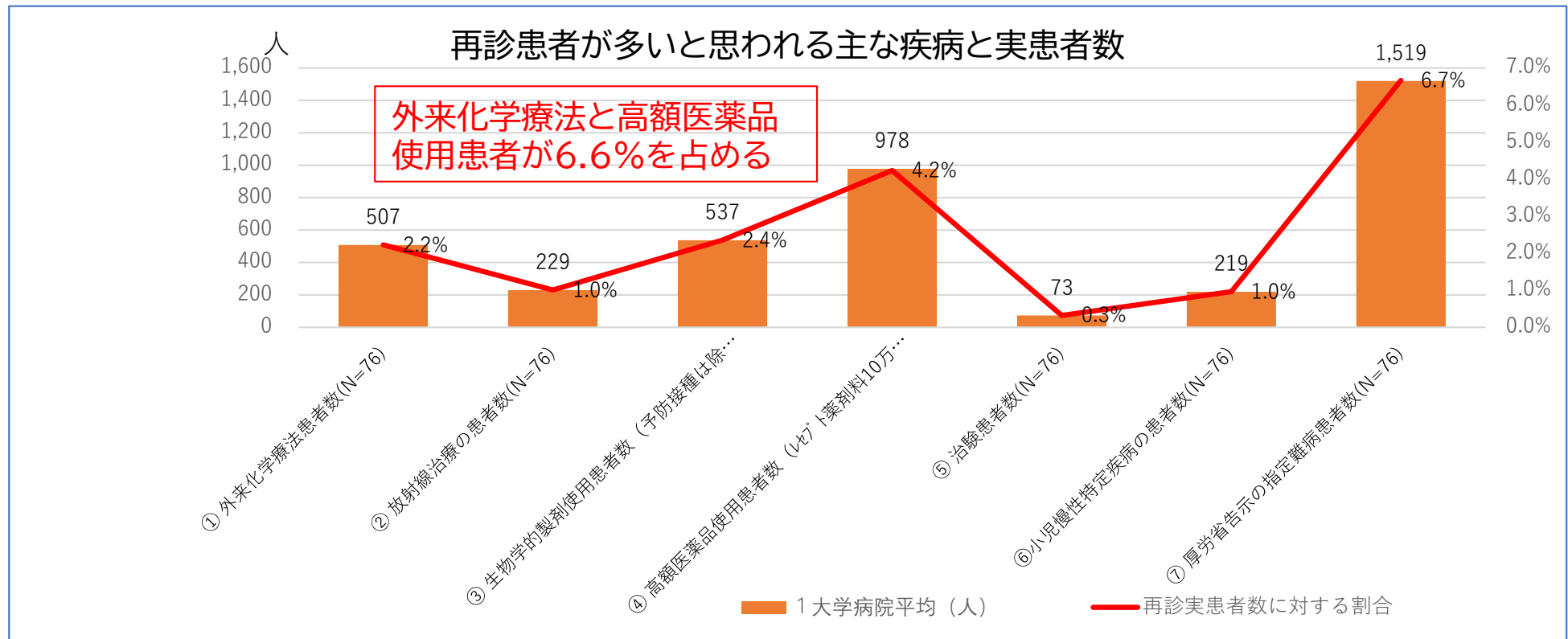


月1～2日の再診患者が88%を占める

再診日数	合計(人)	1大学病院平均(人)	割合
1日	1,217,075	15,604	70.2%
2日	310,175	3,977	17.9%
3日	102,749	1,317	5.9%
4日	45,116	578	2.6%
5日以上	57,688	740	3.3%
合計	1,732,803	22,215	100.0%

再診が多い患者症例と実患者数(1大学病院平均) (令和7年6月の患者数)

再診が多いと思われる疾患のうち、がんの外来化学療法は再診実患者数の2.2%、生物学的製剤使用の患者は2.4%、指定難病の患者は6.7%と再診が多い結果となっている。また、高額医薬品を服用されている患者も4.2%と多くなっている。



再診患者が多いと思われる主な疾病と実患者数	合 計 (人)	1大学病院平均 (人)	再診実患者数に 対する割合
① 外来化学療法患者数(N=76)	38,552	507	2.2%
② 放射線治療の患者数(N=76)	17,434	229	1.0%
③ 生物学的製剤使用患者数(予防接種は除く)(N=76)	40,787	537	2.4%
④ 高額医薬品使用患者数(レセプト薬剤料10万円以上)(N=75)	73,327	978	4.2%
⑤ 治験患者数(N=76)	5,522	73	0.3%
⑥ 小児慢性特定疾病の患者数(N=76)	16,646	219	1.0%
⑦ 厚労省告示の指定難病患者数(N=76)	115,470	1,519	6.7%

令和7年6月の再診回数の多い疾病 (診療科別上位5疾病)

悪性腫瘍、術後患者のフォロー、血液疾患、免疫疾患等の再診が多い

(N:回答のあった病院数)

循環器系(N=65)		消化器系(N=66)		呼吸器系(N=66)		血液内科系(N=65)		神経内科系(N=67)		放射線科(N=68)	
心不全	51	クローン病	23	肺癌	47	多発性骨髄腫	37	パーキンソン病	51	前立腺癌	50
狭心症	32	潰瘍性大腸炎	22	気管支喘息	37	悪性リンパ腫	26	重症筋無力症	22	乳癌	32
心房細動	26	大腸ポリープ	21	間質性肺疾患	36	びまん性大細胞型β細胞性リンパ腫	22	多発性硬化症	21	子宮頸癌	11
高血圧症	18	肝臓がん	18	慢性閉塞性肺疾患	11	急性白血病	20	てんかん	21	肺癌	10
大動脈弁狭窄症	7	膵臓癌	16	肺非結核性抗酸菌症	10	骨髄異形成症候群	19	脳梗塞	15	甲状腺癌	10

その他(内科系)(N=65)		整形外科(N=66)		形成外科(N=63)		消化器外科系(N=64)		胸部外科系(N=61)		脳神経外科系(N=65)	
糖尿病	53	腰部変形性脊椎症	39	乳癌	27	胃癌	33	肺癌	61	脳動脈瘤	39
関節リウマチ	24	変形性膝関節症	36	皮膚潰瘍	23	直腸癌	32	腹部大動脈瘤	24	脳腫瘍	38
腎不全	17	変形性股関節症	32	眼瞼下垂症	13	結腸癌	19	乳癌	17	てんかん	17
高血圧症	9	骨粗鬆症	17	皮下腫瘍	10	膵癌	16	像帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症(心臓血管外科)	15	内頸動脈狭窄症	14
全身性エリテマトーデス	9	関節リウマチ	10	リンパ浮腫	9	大腸癌	16	大動脈解離	5	脳梗塞	12

泌尿器科系(N=69)		耳鼻咽喉科(N=67)		皮膚科(N=66)		眼科(N=63)		麻酔科系(N=58)		リハビリテーション系(N=47)	
前立腺癌	61	副鼻腔炎	37	アトピー性皮膚炎	47	緑内障	36	帯状疱疹神経炎	30	廃用症候群	10
膀胱癌	35	頭頸部癌	30	乾癬	32	白内障	30	神経障害性疼痛	17	運動発達遅滞	8
前立腺肥大症	34	難聴	26	皮膚腫瘍	14	乱視	21	腰部脊柱管狭窄症	15	脳梗塞	7
腎癌	21	甲状腺腫瘍	20	皮脂欠乏性湿疹	12	加齢黄斑変性	18	癌性疼痛	14	変形性膝関節症	6
急性膀胱炎	13	アレルギー性鼻炎	15	円形脱毛症	11	網膜剥離	13	慢性疼痛	11	脳卒中	5

その他(外科系)(N=62)		産婦人科系(N=66)		小児科系(N=68)		精神科系(N=63)		歯科口腔外科(N=56)	
乳癌	56	卵巣癌	34	てんかん	28	うつ病	52	歯周病	39
乳腺症	6	子宮筋腫	23	食物アレルギー	12	統合失調症	44	口腔癌	11
腹部大動脈瘤	5	子宮体癌	22	超低出生体重児	10	適応障害	16	顎変形症	10
肺癌	5	子宮頸癌	20	小児血液がん	9	不眠症	11	舌癌	9
停留精巣	4	不妊症	14	自閉症スペクトラム障害	8	神経症	9	下顎水平埋伏智歯	9

※各病院診療科別に再診回数の多い疾患を調査・集計した上位5疾病(数字は回答のあった病院数)

大学病院からの逆紹介割合が低い主な理由

大学病院からの逆紹介が困難な事例についてアンケート調査を行った結果、以下のような内容が寄せられた。**大学病院でのフォローが必要な疾患等もあることについてご理解を。**

1. 疾患・医療内容の要因

- ・ 希少疾患、血液疾患、神経難病(ALS、多系統萎縮症、パーキンソン病等)、
- ・ 複雑な合併症例が多い患者(複数臓器にまたがる疾患、免疫抑制に伴う合併症、遺伝性代謝疾患患者の出産等)
- ・ 術後フォロー(移植、悪性腫瘍、人工関節、潰瘍性大腸炎、クローン病など)が必要な患者
- ・ 小児がん等の小児疾患患者
- ・ 外来化学療法中の患者
- ・ がん治療中の精神疾患合併症例などの他診療科と連携しての治療患者
- ・ 高額薬剤、生物学的製剤、インスリンポンプ、オピオイドなど特殊な薬剤使用している患者
- ・ 指定難病患者
- ・ 臨床試験・治験を実施中の患者
- ・ 高額医療機器を利用して治療中の患者 等

2. 患者側の要因

- ・ 大学病院への安心感・信頼感が強く「見捨てられるのでは」という不安がある
- ・ 症状が安定しても「再発・悪化の不安」から継続通院を希望
- ・ 複数診療科に通院しており、通院先が増えることから拒否
- ・ 患者にとってのインセンティブがない
- ・ 複数の医療機関に受診するより、大学病院でまとめて受診したほうが医療費が安価になる 等

3. その他

- ・ 紹介地域に該当診療科や専門医が存在しない場合がある
- ・ 身寄りがない、後見人がいない、支払い能力などの経済的・社会的理由
- ・ 受診態度が悪く(クレマー等)紹介しづらいあるいは紹介を受けていただけない 等